2002年　4月23日第三種郵便物認可　（毎月３回５の日発行）
2012年　12月14日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第2823号

SSKW

Hataraku(work)
Kurasu(live)
Sasaeru(support)
That is to say
Kobushi Network

We are social workers!

ぐっとくるよ

こぶしだより

特集 きょうされん利用者部会

- 一般就労者の現在
- ギャラリーこぶし
- たまみシュラン
- 君はぼくのトモダチ
- こぶしづかん
- 社会モデルを地域文化に（連載）

まぶしい陽をあびて、楽しくイモ掘り。
どう？おいしそうなサツマイモでしょう!!

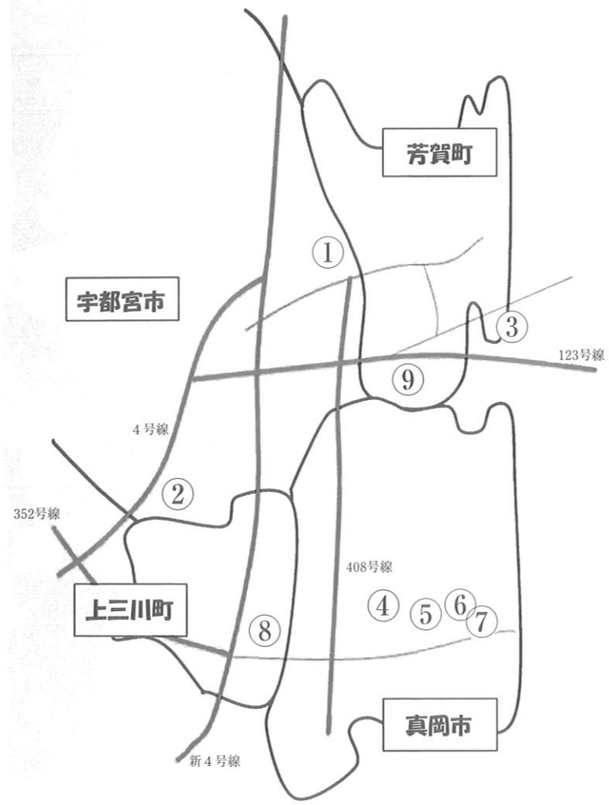
NO.355

【企画】社会福祉法人 こぶしの会　【責任者】藤田勝春　【編集責任者】高橋温美
【編集】こぶしだより編集委員会
【住所】〒三二一―〇九〇二　宇都宮市柳田町一四〇一番地
【発行所】〒一五七―〇〇七三　東京都世田谷区砧六―二六―二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会　定価五〇円

2002年　4月23日第三種郵便物認可　（毎月３回５の日発行）
2012年　12月14日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第2823号

困ったを　良かったにかえる　お手伝い

社会福祉法人こぶしの会 事業所一覧



① 宇都宮市柳田町 1401
□こぶしの会法人本部
028-613-3707　（F）028-666-6128
028-666-0418（居住生活支援事業部）
□第２けやき作業所
028-680-5937　（F）028-680-5938

② 宇都宮市茂原町 837-1
□こぶし作業所
028-653-1020　（F）028-688-1121
□障がい者生活支援センターこぶし
028-613-5703

③ 芳賀郡芳賀町祖母井 2244
□けやき作業所
028-687-1040　（F）028-677-5789
□地域活動支援センター「ほっと CHA」
090-7820-9165

④ 真岡市亀山 1043-23
□セルプ・みらい
0285-81-1155　（F）0285-81-1177

⑤ 真岡市荒町 3-9-5
□県東ライフサポートセンター真岡
0285-83-2567　（F）0285-85-8055
□お菓子工房　ピケ
0285-81-7091　（F）0285-81-7092

⑥ 真岡市荒町 111-1
□県東圏域障害者就業・生活支援センター
「チャレンジセンター」
0285-85-8451　（F）0285-85-8452

⑦ 真岡市荒町 110-1　市総合福祉保健センター内
□芳賀地区障害児者相談支援センター
0285-80-7765　（F）0285-80-7765

⑧ 河内郡上三川町大字上三川 5082-15
□上三川ふれあいの家ひまわり
0285-38-6821　（F）0285-38-6841
□上三川町障がい児・者生活相談支援センター
0285-38-6854
□アトリエ・ド・パン　シュシュ
0285-56-7731　（F）0285-56-7732

⑨ 芳賀郡芳賀町西水沼 438-2
□おらがそば茶屋
028-680-5091　（F）028-680-5092

～編集後記～

○…早いもので、今年も12月。この４月から新しく編集員にくわわり、あっちこっち、つっつき、ひっかき回してマイリマシタ。この場をかりて、皆様に、御礼と御詫びを合わせてノタマイマス。皆様にとって、来年も、素敵な年になりますように・・・。〔高野〕

○…最近の傾向で、紙幣でお釣りを渡す際に客と確認する店が多い。でも、お釣りを間違いなく渡すのもプロの仕事であって、そこに客を巻き込むのはプロ意識の欠如としか思えないのだがどう思われますか？　アホらしいので私は巻き込まれないようにしていますが・・・。〔松本〕

○…今回取材のため毎月第四日曜日、芳賀の道の駅にて行われている骨董市に行ってきました。生憎の雨模様でしたが沢山の人たちで賑わっていました。私もけやき作業所が販売している「豚汁・いなりずし」を頂き、和気あいあいと楽しむことが出来ました。もし骨董市に行かれたことのない方がいましたら、是非一度参加してみてください。〔小野〕

○…先日姉と巣鴨に行った。とげぬき地蔵にお参りし、赤パンを買い、塩大福を食べた。ディズニーランドよりもテンションが上がる。私もすっかりオバさんだな。〔星宮〕

○…健康診断がつい最近ありました。三十路をすぎ、いろいろなところが気になりだしている年頃ではありますが、体重はなんとかキープ、but、お腹まわりが成長してしまいました・・・。でも、正月は大好きなお雑煮をいただきたいと思います。〔菊地〕

○…美容室に行くと、美容師さんと七味やゆず胡椒はどんな料理とあうのかや野球について話をして盛り上がっています。20代でも・・・話す内容はオジサンです。(笑)最近のはやりの話題にはついていけません。〔篠崎〕

本会の定款、事業計画、財務諸表等を閲覧ご希望の方は、各事業所までお申し出ください（閲覧時間 8:30 ～ 17:00）

2002年　4月23日第三種郵便物認可　（毎月３回５の日発行）
2012年　12月14日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第2823号

きょうされん利用者部会の運動を知って もっとくらしやすい世の中に！

栃木大会から始まった全国のなかまとのつながり

近年、障がいのある人々が自分たちでグループをつくり、さまざまな局面で社会的に活動するようになってきています。自分たちのくらしをより良いものにするために、自分たちの権利を守るために、地域の一員となって働くために、そして余暇を楽しむために。

こうした組織・活動を、欧米では「セルフアドボカシー」、「ピープルファースト」などと呼んでいます。日本でよく使われる言葉としては「当事者活動」があります。当事者活動は、最初レジャークラブの要素が強かったが、徐々に当事者の意思決定や会議を開くためのトレーニングを目的とするようになっていきました。一九九〇年代以降、障がい者団体の世界大会や国内大会のようなものが定期的に開催されはじめました。

きょうされんの動きを紹介すると、第三十回東京大会（二〇〇七年）の年に全国の利用者部会が発足しました。当事者自身の「人生の主人公」であるという自覚が自治会活動の推進力となり、現在自治会活動は、「作業所の課題は自分たちの課題」として、その解決を求め、新法実現のための要求活動も、当事者が先頭に立つ主体的な取り組みになってきています。

利用者部会とは？？

みなさんは、利用者部会という言葉を耳にしたことがあるでしょうか。

利用者部会について、栃木県から全国きょうされんの利用者部会に参加している**直井信也**さん（けやき作業所利用者）にお話を伺いました。

全国の利用者部会員である直井信也さんは、昨年度まできょうされん栃木支部の利用者部会である「**つばさの会**」の会長の重責も担っていました。全国の利用者部会の会議の中では、栃木支部の活動状況の報告や、全国の利用者のために部会員との意見交換を行っています。また、栃木支部の中では全国の利用者部会で話し合われたことの報告を行ないます。今年十一月に兵庫県神戸市で開かれた利用者学習交流会で、各支部の部会長の方や部会をつくろうと考えている利用者を対象にした「**支部の利用者部会づくり**」をテーマにした分科会を開こうと発案したのも直井さんでした。

きょうされんとは、一九七七年に障がいのある人びとの願いをもとに、全国十六ヵ所の共同作業所によって結成されました。現在は、小規模作業所をはじめ通所型事業所やグループホーム、相談支援センターなどの約二千カ所の会員にまで大きく広がっており、結成以来、会員間の交流、学習、要請運動などを通して、小規模作業所問題の解決をはじめ、障がいのある人びとの豊かな地域生活を支える制度づくり、地域づくりをめざして取り組んできています。

障害者自立支援法の成立時期（二〇〇五年）には、「当事者活動として何ができるか」、「何をしていかなければならないのか」が話し合われました。参加者から「**全国に利用者部会をつくり、まとまって一つの力にしよう**」という発言があり、利用者自身に大いなる力を感じさせました。

2002年　4月23日第三種郵便物認可　（毎月３回５の日発行）
2012年　12月14日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第2823号

栃木から始まったこと

栃木県で開催された第二十八回きょうされんの全国大会（二〇〇五年）を機に利用者部会をつくる動きが起こりはじめました。きょうされんの全国大会では、プログラムの中に利用者交流分科会というテーマ別に分かれた分科会があります。利用者交流分科会は、その名のとおり利用者自身が進行を担当し、障がいのある当事者のための分科会です。

その利用者交流分科会で、栃木大会から、今年の第三十五回の福井大会までの全八回、同じテーマを掲げて継続して分科会が開催されました。その中で、直井さんは栃木大会からの八年間「自治会活動」の利用者分科会を担当されていました。はじめは、利用者に付き添った職員が話を進めていましたが、全八回が終了した今では、利用者自身が司会をするようになってきたということです。また、栃木大会の前年（二〇〇四年）、「つばさの会」（きょうされん栃木支部本人部会）ができた当時全国で三支部しかなかった利用者部会が、現在では十九部もできています。

全国の支部で利用者部会をつくりたいという動きが活発になってきており、既述の兵庫県神戸市で開催された利用者学習交流会では、「**支部の利用者部会づくり**」の分科会が開かれ、全国の利用者が意見交換する機会がつくられました。筆者が福井大会で参加した「自治会活動」の利用者交流分科会の中では、各支部で利用者部会を立ち上げて活動している報告や、まだ利用者部会がない支部からの、「どうすれば支部で利用者部会がつくれるようになるか」などの意見が活発に飛び交っていました。

直井信也さんのプロフィール

けやき作業所自治会長
きょうされん利用者部会員
こぶしの会設立当初より、こぶしの会の作業所を利用されており、電動車椅子を乗りこなし、様々な福祉サービスを活用しながら単身生活を送られています。現在は、全国の利用者部会員として、部会の会議や学習交流会の打ち合わせなどで、栃木県内にとどまらない活動を行っています。

障害のある人も　ない人も
わけへだてのない　社会を

障害のある人を支える制度づくりにはあなたの署名、募金が必要です

きょうされん第36次 国会請願署名・募金運動に ご協力ください

請願項目

① 障害者総合支援法を「障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言」にそって見直してください。特に、地域生活を送るための支援にかかる費用については、原則無料としてください。
② 障害者関連予算について先進国の平均レベルまで拡充してください。

2002年　4月23日第三種郵便物認可　（毎月３回５の日発行）
2012年　12月14日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第2823号

全国の利用者部会の取り組み

全国の利用者部会ではどのような運動を行っているのか、その一部をご紹介したいと思います。

平成二十二年九月に開かれた第七回障がい者制度改革推進会議総合福祉部会で、参考資料としてきょうされん利用者部会からの資料が提出されています。その一部を抜粋して掲載します。

新法へのねがい

きょうされん利用者部会
部会長　林　優子

きょうされんは、結成以来ずっと障害のある人の気持ちを受け止め、その思いを真ん中に据え「利用者が主人公」を大切に活動しています。私たち「きょうされん利用者部会」は二〇〇七年十二月に結成し、一人ひとりの思いや願いを大切にしながら、全国大会や利用者学習交流会などで、全国のなかまたちとつながりを深めあい、みんなの願いが実現するように取り組んでいます。

障害者自立支援法廃止にむけての運動では、私たち利用者も各地で積極的に動きました。

最大の問題である応益負担の廃止に向け全国で、地方で、種別や立場の違いを越え多くの人と手をつなぎ、精一杯の運動を展開しました。立法府や行政府に声を届けるだけではなく、司法府にも訴えようと障害者自立支援法違憲訴訟がおこりました。裁判に訴えるために、テレビや新聞の取材など、プライバシーをさらけ出すことなど、たくさんの葛藤があっても「障害を自己責任とする考えからの負担はおかしい。」「なぜ働くのに利用料？」この気持ちから、「このことは自分だけのことではない。」「国連障害者権利条約に見合った法律をつくってほしい」との思いで、訴訟原告として七十一名が矢面に立ちました。二〇一〇年一月障害者自立支援法違憲訴訟は全国十四ヵ所の地裁で「和解」が下されました。

新しい福祉制度を創る方向性が示され、「障がい者制度改革推進会議」や「総合福祉部会」が始まり、当事者や福祉関係者が多数加わって開催されていますがこのことはとても画期的なことです。当事者が出席し決定の場にいることや傍聴可能な他、手話・字幕つきで「目で聴くテレビ」がCS放送され、終了後にはオンデマンド配信で内容をオープンにし、広く知らされる様々な配慮がなされていることで、全国から新法に寄せる期待が高まっています。

この度、私たち利用者部会はアンケートを行いました。仕事、暮らし、こんな社会になってほしいなど、日常の中で感じる率直な思い切実な願いを知っていただきたく、まとめた資料を提出します。

私たちは「差別がなくなってほしい」と願っています。暮らしている中でふと感じる差別がまだまだあります。障害をきちんと理解されず、批判的な言葉をあびせられたり、作業所建設やグループホームを始めるときも反対されたり、心が傷つくこともたくさんあります。「健常者」と「障害者」という区別がなくなりどんな障害があっても住みなれた地域で障害のない人と同じように生きたいです。

「当事者が社会の対等な一員として安心して暮らすことのできる」社会にしていくという、「障害者自立支援法違憲訴訟の基本合意文書」に力を得て、とびっきりの新法ができることを期待し下記に記します。（以下略）

さいごに

今回は全国レベルの動きを紹介してきましたが、こぶしの会では各事業所に利用者の自治会がつくられ、毎年夏冬のボーナス交渉を所属先の事業所長と行っています。自治会主催の忘年会や親睦旅行などの各種行事、きょうされんの運動のひとつでもある国会請願の署名運動、さらに、このこぶしだよりを通じた作品コンクールなどを行っています。

しかし、最近の法人内の自治会活動はすこし力が弱まっているように感じます。その原因はどこにあるのか、自治会活動の原点である「利用者による利用者のための利用者活動」の理解と支援が、支援者の側に不足してきていることがあげられると思います。

利用者が決定（選択）し、行動し、確信を深めていくためには会議のレジュメの作り方、記録のとり方、進行のしかた等々、実にきめこまやかな支援が必要になります。支援者が『無理だろう』と思ってすべて決定してしまったり、利用者をお客様にしたり、定例の会議を支援者の都合で破るなどの小さな支援のサボタージュが利用者の当事者活動を弱めているのではないでしょうか。

「つばさの会」の活動の柱、①みんなで交流します②みんなで学びます③いろいろなことをたくさんの人たちに知らせます④いろいろなことを調べます⑤仲間をふやします⑥目的を実現するためのいろいろな行動をします、は、自治会活動にとっても基本となるものであると思いました。今回の特集がこぶしの会の利用者自治会活動支援を見直す機会にできればよいのですが。

（菊池・星宮）

2002年　4月23日第三種郵便物認可　（毎月３回５の日発行）
2012年　12月14日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第2823号

ギャラリーこぶし

作業に取り組む横顔はまさに職人！

県東ライフサポートセンター真岡から、有限会社黒子化学工業（益子町・代表取締役黒子博之様）に就職した小室勝さん。プラスチック製品の製造・加工を行っている同社で働き始めて半年ほど経ちましたが、自転車→電車→自転車という大変な通勤にもめげず、がんばっています。

―作業は、難しいですか？

「ローラーを利用して空気を抜く作業が、最初は難しかったけど、今は自信をもってできるようになった。完璧にできれば時給アップと言われているので、がんばりたい。」

―職場の環境はどうですか？

「楽しくて、やりがいがあります。お世話になった社長さんを尊敬してます！」

―お世話になったエピソードをなにか教えてください

「自転車を盗まれてしまった時に、新しく買ってくれたことです。」

―これからの目標、夢は？

「時給アップ、お金を貯めて一人暮らしをしたいです。」

―最後に、いま就職を目指してがんばっている仲間に、何かメッセージを

「夏に疲れが出て一週間ほど休んでしまいました。体調管理は大切だと思います。」

◆　◆　◆

取材中は緊張のせいか、かなり恥ずかしがっていた様子だった小室さん。しかしいざ仕事に入ると一変。作業中の目は真剣そのもの。完全に「職人の顔」になっていました。

取材・編集　松本　祐一
協力・チャレンジセンター

快挙達成のアーティスト登場！

セルプ・みらい利用者の小坂英子さんの作品が、きょうされんが製作している「はたらく仲間のうた」カレンダー二〇一三年卓上版（五月）に採用されました！

お菓子工房ピケの班長としてがんばる一方でのこの快挙、およそ二千点の応募作品の中から選ばれ入賞を果たしました。

『希望と笑顔のばら』と名づけられたこの作品は、セルプみらいの職員さんからもらったバラの美しさに感動し、スケッチしたそうです。

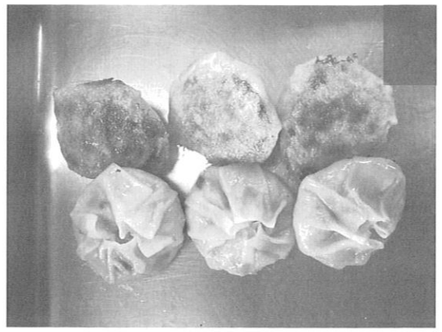
将来の夢は？との問いに「世界一の色彩とグラデーションで人を魅了するアーティストになって、世界中の人々を幸せにしたいです！」

と元気よく答えてくれた小坂さんは、バレエ鑑賞、エクササイズも趣味で、さらにはフルマラソンにも挑戦したいとのこと。これからもアーティスト＆アスリートへの道を突き進んでください！

カレンダーはきょうされん冬の物販で発売されます（１０００円）。ぜひお買い求めください！

2002年　４月23日第三種郵便物認可　（毎月３回５の日発行）
2012年　12月14日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第2823号

毎度おなじみのたまみシュランです。
今回は、けやき作業所の厨房班に行ってきました。
なぜおなじみのニコニコパン屋さんではなく、厨房班におじゃましたかと言いますと…
我がたまみシュランアンテナが、芳賀町でひそかなブームになっている食品を製造販売しているという情報をキャッチしたからなのです。
さて、どんな食べ物なのかワクワクしますね!
それでは厨房班をのぞいてみましょう。



少し濃いめの味付けで、タレ無しでもおいしく食べられるのが特徴の「まんまるぎょうざ」。
焼き１パック6個入り270円
冷凍1パック6個入り240円

問い合せ
けやき作業所
芳賀郡芳賀町祖母井 2244 番地
電話　028-687-1040

作業は分業して、手早く効率的に行います。技術とチームワークが大切！素晴らしい集中力に脱帽です。

2002年　４月23日第三種郵便物認可　（毎月３回５の日発行）
2012年　12月14日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第2823号

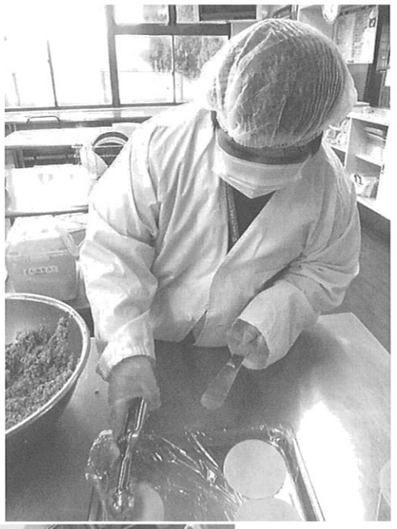
こぶしんぼ　バンザイ!!

こぶしの会を食べ歩き！

たまみシュラン

目指せ地域No.1
けやき作業所・厨房班

産声上げて3か月！まんまるぎょうざで目指すはＢ級グルメNo.1



ディッシャーを使って中に入れる具の量を一定にしています。

ぎょうざを丸く成型。難しそう～。

合言葉は「HAGA　town　de　No.1」のけやき作業所にあって、それをまさに現実のものにしようとする大きな野望をもった厨房班。
「地域の人たちに愛されるぎょうざを作り、少しでも地域貢献できたら嬉しいです。まだスタートしたばかりですが、みんなで協力して頑張りますので応援よろしくお願いします。」製造担当の仲間と職員の声です。
ぎょうざの専門店の無い芳賀町で輝いてくださーい♪

ぎょうざについて教えてください

- ぎょうざの特徴は？
  形が丸くて、具がいっぱい入っていることです。
  お客様からはよく、「まんまるぎょうざ」と、呼ばれています。
- ぎょうざを作り始めたのはいつからですか？
  平成２４年９月のスタートです。販売開始からまだ３か月しかたっていません。
- 販売について教えてください
  今の販売はイベント中心ですが、１２月からは「にこにこパン屋さん」と一緒に移動販売が始まります。
  冷凍での販売も行いますので、けやき作業所までご注文ください。
- 今後の目標はありますか？
  芳賀町のＢ級グルメでNo.1 になり、もっと多くの方に知っていただき、けやきと言えばパンではなく、「まんまるぎょうざ」となることです(笑)。

こぶしの会を支える力。それは、家族による深い愛情

障がいのある仲間の豊かな生活づくりへの力となる！

けやき作業所等後援会会員 関本孝子さん・川堀幸子さん・塚田悦子さん

今回の登場はこぶしの会に長年関わってくださっている、けやき作業所等後援会会員**関本孝子**さん・**川堀幸子**さん・**塚田悦子**さんです。みなさん利用者のご家族ですが、中にはお子様が亡くなられてからも支援活動を継続してくださっています。こぶしの会立ち上げ当初から精力的にご協力を頂き、家族会と協力して、地域に根ざした作業所を建てるため、朝から晩まで一日中無我夢中にご協力下さいました。そのおかげもあり、現在のけやき作業所を開所するまでに至り早二十年、現在もこぶしの会のために力を注いでくださっています。

骨董市での売り上げは、けやき作業所へ寄付されます

協力することの大切さ

「昔はお金はなかったけれど、心は豊かでした」

「時代のせいにはしたくないけど、家族・職員・仲間が一緒になって、一つのことを成し遂げようとする心が少なくなっていると感じます」

取材の中でのこの言葉には、時間の経過とともに少しずつ、人と人との絆が薄れてしまっていることのさびしさを感じました。

絆を築くためには何が必要なのでしょうか？

「一つの目的に向かって協力することで、本当の信頼関係が築けるのです」

一人の力は微弱だったとしても、たくさんの人が集まることで大きな力になるのです。

「時代が変われば、人も変わっていきます。昔の真似しても大きな協力体制は作れないのです。みんなが一つになり、今の時代に合ったものを作っていく必要があります」

取材を通して、お話のすべてのことばに、こぶしの会を深く愛していただいていること、これからもより良い場となるように、仲間のことを考え、職員のことを考え、地域のことを考えてくださる温かさを感じました。

平成24年10月28日（日）に行われた骨董市

時間が流れても変わらないもの

「時代が変わっても家族の絆は変わらない」

「子どものことは家族がしっかりと考えていくことが大切です」

障がいのある方も齢を取り、高齢になっていきます。家族が真剣に子どもの将来のことを考えていく大切さ、それに協力できる社会のあり方。「誰かがやってくれる」ではなく「自分で行動する」ことが必要であることをあらためて学びました。

取材：小野敦生

2002年　4月23日第三種郵便物認可　（毎月３回５の日発行）
2012年　12月14日発行　ＳＳＫＷ　増刊通巻第2823号

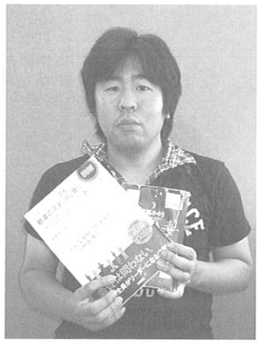
こぶしづかん

こぶしの会に生息するゆかいな職員のおすすめの本を毎回紹介するよ。

～わたしのおすすめの本～

こぶしづかん

取材：高野　満



昨年から今年にかけて、県東ライフサポートセンターでは半分の職員が入れ替わりました。主任という立場から、働きやすく、かつ実りある職場の環境作りという課題に直面していたとき、この本に出会ったそうです。

「実は、この本、家内のディズニー好きな友だちが、中身を確認せずに購入したものの、すぐに飽き、それを家内がもらって、家の中にころがっていたところ偶然手にし・・・これだ、と思いました。」

まさに、主任の心内を察してか、本のほうから近づいてきたようなものです。松本主任さん、にっこり。

その内容ですが、漢字ばかりの難しそうな実用書とはちがい、イラストや図表がふんだんに描かれ、ソファに寝そべって気軽にページをめくれます。それでいながら、多くのことを教えてくれ、また気づかせてくれます。コンビニでも扱っているので、ぜひ、お勧めの一冊です。

松本（まつもと）　裕生（ひろむ）　県東ライフサポートセンター真岡　主任

先日、県東ライフサポートセンターでは、チャレンジセンターと、日ごろお世話になっている企業さんと合同で、鬼怒川の河川敷でバーベキューを行ったそうです。とてもチームワークがよさそうだったので、これもその本のおかげですか？　と、水を向けると、「さあ～、どうでしょうね・・・」

松本主任さん、にやり。最後は、うまく煙にまかれました。

9割がバイトでも最高のスタッフに育つディズニーの教え方
●福島文次郎/著●中京出版●930円+税

わたしがご紹介したいのは、この本です。と、差し出されたのは、愛らしいお化けが表紙をいろどるカラフルな絵本（？）でした。さらに目をこらすと、桃太郎がいて、エンジェルが舞い、隅のほうにはニコニコ顔のお弁当ばこあり・・・いや、にぎやかなこと、にぎやかなこと～

「この本を仲間に読み聞かせているんです。３歳とありますが、大人が読んでも楽しく仲間たちの評判は上々で、目を輝かせて聞いてくれます。私も大好きなんです。」 高岩さんはそう言い添えました。

高岩さんは、看護師として今年の５月、こぶしの会に入会しました。以来、セルプ・みらい「生活介護班」で、障がいの重い仲間たちと関わりをもってきました。それまで長年勤務していた特別養護老人施設にくらべ、体力、気力ともに一段と力がいるそうです。

高岩（たかいわ）　富士子（ふじこ）　セルプ・みらい　看護師

3歳のうたとおはなし
●講談社●1,500円

でも、ここは楽しい、と笑顔で応えてくれました。「ここは、みんな仲間が若いんです。一人一人の支援について悩みは尽きませんが、エネルギーをもらえます。自分自身も若返ります。」

現在、「生活介護班」では、「静」と「動」を柱に、月に一度の音楽セラピー（静）プールでの水中運動（動）を実施しています。その先頭にたって、いつも大張り切り（おおはしゃぎ？）で、活躍しているのが高岩さんです。これからも、もっともっと悩み、そして楽しく、さらにいっそう若返ってください。

社会モデルを地域文化に

第四回

「現実を人間的に変えるということ」

文：高橋温美（こぶしの会常務理事）

その時の私の正義と常識

私は、気になる体験があると、いつまでも気にかけている癖がある。そうした出来事は、結構自分の生き方に大きく影響してくるのだが、その気にかかる事柄の多くはすこしも解決しているわけではないので思い出すたびに鬱とした気分になる。そのうちの一つは、私が七五年に大学を卒業し、初めての職場である県南の入所施設に就職したその四、五年後ぐらいの事だったと思う。

宿直勤務が終わり、さっさと職場を後にし、国鉄（JR）小山駅の交差点で車を停止していた時だ。目の前をダウン症の障がい者が信号のところでしばらく戸惑いながら横断歩道を渡り始めたのだ。その彼に対する自分の判断と行動にショックを受け、納得するまでにしばらく気に掛けていたのである。とっさに思いついたのは、「徘徊」「迷子」「無断外出」ということだった。町のど真ん中で重い障がいがある若者が歩いているということは、当時、自分の世界観の中に全く無かったのだ。思わず行動にでてしまったのだが、安全確保、保護、しかるべく機関（警察）に通報し、無事に家庭又は学校へ送り届けることであった。車を傍らに駐車し、障がい者を「確保」し、「どうしたの」と聴いたのだ。たどたどしく、自信なさ気な会話の中で分かったのは、駅の近くにある職場への通勤途上であるということだったのだ。

彼の言葉をその通りに受止められない私は、当時の職業意識的葛藤の中で彼の後を追跡した。彼は、旧小山郵便局跡の木造の建物の中に消えていった。小山共同作業所である。

これは施設病だ

この出来事が気に掛かっていたということはこうである。福祉従事者としての自尊心の塊でもあった自分は、少なくとも障がい者の、人間として（この捉えも浅はかであったと思うが）の豊な生活をつくりだす仕事をしていたと自負し、地域での当たり前の暮らしをしたいという彼らの強い希望にまったく気づいていなかった自分自身に気がついてしまったのだと思う。いまでは、障がい者が地域で生活を営むことが当然の如くのものの言い方をしてはいるが、精一杯施設病にかかっていたのだ。そして、いまも施設病から回復していない自分が気に掛かっているのだと思う。

一九七〇年代は、万博に象徴される戦後の高度成長期の中で、コロニーのような数百名の障がい者が暮らす大規模収容施設を中心とした社会福祉施設緊急整備五カ年計画が策定され、施設の整備を進めようとした時期だ（私が働いていた施設は六〇名程度の小規模？のものだった）。その哲学は、当時の心身障害者対策基本法に見られるように、心身障がいの発生の予防、自立することの困難な者を、終生にわたり保護することを優先した施策が始動した時期でもあった。しかし、入職した七五年頃になると、高度成長の陰り（石油ショック）をうけ福祉見直し政策に転換し、地域で暮らす障がい者は相変わらず社会の底辺に沈んでいた。その一例が、相次ぐ親による障がい児の子殺し事件や優生保護法の上程、十全会精神病院の虐待事件など生命そのものが否定されていた恐るべき時代でもあった。また、その中でも将来、日本における障害者制度改革のキャスティングボードを担う、当事者組織や事業者団体が誕生し、障がい（児）者の人間復権の抵抗が始動してきた時代でもあった。

あのときの自分の障がい者観や行動は、こうした制度や運動の影響を有形無形に受けたものだったと思うし、たった今現在においてさえも、虐待防止法が必要な障がい者の暮らしの現状、障がい者の権利宣言とはかけ離れた本会の作業所の現状の中で、変わらず自分の心に棘として残り続けているのだ。それは、制度・施策の中で仕事をせざるを得ないという、加害者（例えば自立支援法に定める利用者負担金の徴収、封建的労働ともいうべき低賃金の福祉的就労等々…）としての自分と、障がい（児）者とともに人間復権へ向かうという、同志としての彼らへの共感という二つの心の折り合いがつかない状態なのだと思う。

福祉労働者として…

時代遅れの世界観をガラガラとひっくり返され、それからは福祉労働者としてより納得できる行動を模索した。入所施設から地域の企業で働く利用者を送りだしたり、入所者ひとり一サークル活動のとりくみで、施設から地域に飛び出していくことを試みたり、サマースクールで共にした親たちと作業所づくりに取り組んだり、在宅障がい者と施設入所者の青年サークル（交流の場）を企画したりなどなど、地域生活を意識した活動を仲間たちと取組んだ。その活動と障がい者の変化を通じて、地域で暮すとはどういうことなのか、彼らの生き方への共感とはどういうことなのかを、地域（社会）に向かい合って少しずつ学んでいけた気がする。

地域社会のあり方（制度・施策）が変わる、又は変えるという事は、その行動を通じて、社会の構成員一人一人が良かれ悪しかれ『人格』に影響を与えながら変化していくのだと思う。そして、現状を人間的に変えるという主体性を持たない限り施設病は重篤化していくのだ。

こぶし共同作業所が民間アパートの一角で産声をあげたのが一九七四年。そのころ制度・施策としてまったく手を着けられていなかった成人期の重度障がい者の働く場を、関係者の協働の力で開拓して行こうと結成された共同作業所全国連絡会が一九七七年に発足する。その後、作業所は障がい児の義務教育化・全員就学実施を機に、卒業後の受け皿として雨後の筍といわれる勢いで、一気に増えていったのだ。後に知るのだが、小山共同作業所づくりに尽力したグループのけん引者は、こぶし共同作業所が法人化するときに関わっていたメンバーでもあった。

（以下次号）

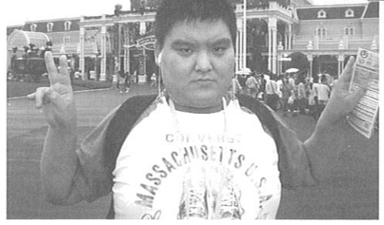
秋の活動報告

食欲の秋・スポーツの秋・イベントの秋。秋の心地よい空気の中、それぞれの取り組みが行われました。どうです？楽しそうな雰囲気が、においが、笑い声が聞こえてきませんか？

みんな一緒で超・元気！超・ハッピー！

いもほり：こぶし

ディズニーランド：みらい



日産しらさぎまつり：けやき ひまわり